

高度な課題設定・解決力を育む教育が 医学や国際問題などの分野に生徒を導く

注目ポイント

- 1 社会Ⅰ～Ⅲと卒論で鍛える課題設定・解決力。
- 2 医学部志望者を教員の情熱で徹底サポート。
- 3 グローバル教育部で海外進学希望者を支援。

オリジナル科目「社会Ⅰ～Ⅲ」は アカデミックな探究型総合学習

海城では中学の社会科学科を、総合学習と系統学習(通常の教科学習)の2本立てで行っている。総合学習にあたる社会Ⅰ～Ⅲは、各教員が自分の専門分野に引き寄せたテーマで、課題を発見し、情報を収集・吟味・分析し、解決に至る道筋を論文としてまとめ、発表する力を養う。また、ディスカッションや発表を通して紳士教育ともいえる共生・協働の精神を学ばせていく。例えば法律専攻の教員なら「死刑制度」をテーマに据え、生徒に賛成か反対かの立場で情報収集させ、議論させる。授業のなかで、第1次情報を手に入れるための取材方法やフィールドワークのや



中学3年間の学習の集大成としての「社会科学論文集」

り方、レポートの書き方などを教える。生徒がプレゼンテーションをする際は、他の生徒がその生徒に対し、内容に偏りがないか、内容がきちんと伝わっているか、アシストペーパーを書く。相手に失礼だったり感情的だったりする書き方は紳士的ではないと論ずる。

このような経験を経て、生徒は中3の卒論に挑む。「問題を発見するのは簡単ですが、そこにどんな具体的な課題が含まれているのかを見出すのは難しい。生徒には、卒論を通して、そこまで掘り下げてほしいと考えています」と中田大成校長特別補佐。中3の4月にテーマを出し、夏休みに取材やフィールドワーク、文献収集、2学期末までに30枚以上の卒論に仕上げる。例えば、東京都障害者職業センター職員やメーカーの広報・IR室、職業能力開発校職員らに取材した、「障害者雇用支援のあり方」行政と民間企業は何をすべきか」というような政策提言にあたるものや、医学部志望が多い海城らしく、医療従事者や施設事業者など

国立医学部志望と職業選択は同義 本当に熱意ある生徒をサポート

卒論、そしてそれに続く中3、3学期の「職業レポート」の取材を通して、医療の現場をはじめ、役所、企業などに足を運ぶことは、生徒にとってキャリア教育にもなっていると中田教諭は話す。

同校が2004年から始めた「医学部小論文・面接講座」も、きっかけは卒論だった。卒論で研修医の医療事故や小児ガンの告知などの医療問題を研究する生徒が増えてきた。彼らは、現場の医師への取材によって触発され、正確な診断と適切な治療によって患者のいのちを救うことを最優先にする生き方を模索し始めた。そうした生徒の希望に答えようと立ち上がった講座だという。長時間の講義、小論文指導、模擬面接などを通じて、「高校では学ぶことがない医療の実情や医学の進歩にふれさせ、一生の仕事として医師を選ぶ志を固めさせよう」という教員の熱い思いがあるのだ。

帰国生や海外進学希望者を 支援するグローバル教育部

もう一つ、生徒をバックアップするのは2012年に設置されたグローバル教育部。

「卒論で国連高等弁務官を取材した生徒が、将来は国連職員になりたいと、海外の大学への進学を希望したのですが、当時、私たち教員側に経験が不足していたので十分な支援ができませんでした。その反省のもとに体制を整えたのです」と中田教諭。現在は帰国生のサポート、海外留学・進学の支援、多文化に接する機会企画・実施などを担当する機関となっている。前出の生徒はNYのコミュニケーション・カレッジからジョージ・ワシントン大学に編入し、JICAに就職した。将来は米大学院へ行き、国連をめざすという。結果的には、コミカレでさまざまな階層の人たちと触れ合ったことが、将来のために大いに役立つだろう。まさにフィールドワークを人生のなかで実施し、自らの道を拓いた実例といえるだろう。

生徒が自分の意志と力で知的好奇心を深掘りし、知性を鍛え、ぶれない大きな価値観を身につければ、グローバル社会の真のリーダー、紳士になれる。それが、海城がめざす教育だ。



高3英語ライティングの授業の様子

SCHOOL DATA

- 設立 1891年
- 併設校 海城高等学校
- 生徒数 (1年)329名
- クラス編成 (原則)40名
- 授業時間 8:35~14:55 (土)~12:25

- 海外交流校 有
- 帰国生入試 有
- 交通 新大久保駅(JR山手線)徒歩5分、西早稲田駅(東京メトロ副都心線)徒歩8分

- 大学合格実績(過去3年間) 東京一橋、東京工業、京都、東京医科歯科、東京外国語、早稲田、慶應義塾、上智、東京理科、東京慈恵会医科、順天堂など